

履修について

■卒業に必要な単位数

卒業するためには、所定の授業科目を履修し合計 132 単位以上の修得が必要です。(履修要項第 1 条)
諸課程履修科目 (P.24~P.25) は卒業要件に含みません。

| 科目群 | 科目区分 | 卒業要件単位数 | |
|-------|---|---|---|
| | | 必修 及び 選択必修 | 選択 |
| 建学科目群 | 仏教学 | 8 単位 | — |
| 共通科目群 | 言語コミュニケーション科目 | 8 単位 | 30 単位 「共通科目群」及び 「専門科目群」より 合計 30 単位を 自由に選択 |
| | 情報基盤科目 | 4 単位 | |
| | 健康科学科目 | 2 単位 | |
| | ジェンダー科目 連携活動科目 国際理解科目 教養科目 オープン科目 | 8 単位 5 つの科目区分より 合計 8 単位を 自由に選択 | |
| | 専門科目群 | 72 単位 (※) 必修科目を全て含めて 合計 72 単位を選択 | |
| | 卒業要件単位数の合計 | 132 単位 | |

※ 各学科・専攻の専門科目については P.29~P.67 参照。

■必修科目と選択科目等について

必修科目

必修科目とは卒業するために必ず修得しなければならない科目のことで、科目一覧表の「必選の別」に「必」と記載されています。

必修科目が不合格となった場合は、必ず次年度以降に再履修してください。(再履修については P.3 を確認してください。)

選択科目と選択必修科目

選択科目とは自由に選択して履修できる科目のことで、科目一覧表の「必選の別」に「選」と記載されています。

ただし、「選」と記載された科目の中には、「この中から○単位修得すること」「○○コース・系列の者は必修」のように、指定された範囲から定められた単位数を選択して修得しなければならない科目があり、これらを選択必修科目といいます。

選択必修科目の履修条件は、履修科目表の備考欄に記載されています。

■各科目群の必要単位数について

建学科目群

仏教学(8 単位必修)

仏教学ⅠA、仏教学ⅠB、仏教学ⅡA、仏教学ⅡB は必ず修得してください。

共通科目群

言語コミュニケーション科目(8 単位必修)

- ・英語ⅠA1、英語ⅠA2、英語ⅠB1、英語ⅠB2 は必ず修得してください。
- ・初修外国語のドイツ語、フランス語、中国語、韓国語のいずれか1言語について、
○○語ⅠA1、○○語ⅠA2、○○語ⅠB1、○○語ⅠB2 は必ず修得してください。

情報基盤科目(4 単位必修)

情報リテラシー、データ・AIリテラシーは必ず修得してください。

健康科学科目(2 単位必修)

運動と健康科学は必ず修得してください。

ジェンダー科目・連携活動科目・国際理解科目・教養科目・オープン科目 (8 単位選択必修)

5つの科目区分より、自由に選択して合計8単位を必ず修得してください。

専門科目群

学科専門科目

各学科・専攻の専門科目(P.29～P.67)より、必修科目をすべて含めて合計72単位を修得してください。

その他:諸課程履修科目

諸課程履修科目(P.24～P.25)は卒業に必要な単位に含めることができません。

■再履修について

不合格になった科目や開講年次に履修できなかった科目は次年度以降に履修(再履修)することができます。卒業必修科目が不合格となった場合は必ず再履修してください。

建学科目群、共通科目群及び諸課程履修科目の再履修方法については、「履修の手引き」を確認してください。

■履修登録について

大学の授業を履修するためには、毎年度当初に履修登録の手続きを行う必要があります。

(履修要項第4条)

履修登録とは、定められた期間にその年度に履修する科目を登録する手続きのことです。

履修登録をしていない授業に出席しても単位を修得することはできません。

履修登録にあたっては、P.2に掲載した「卒業に必要な単位数」を熟知し、4年間で必要単位(132単位)を修得できるよう、履修計画を立てたうえで行ってください。

また、定められた期間外に履修登録・修正を行うことはできません。履修登録忘れや履修登録手続きの不備による不利益は学生本人の責任となりますので注意してください。

■履修登録単位数の上限(CAP^{キャップ}制)

本学では、1年間に履修登録できる単位数に上限を設ける「CAP^{キャップ}制」を導入しています。

卒業要件として修得すべき単位のうち、1年間に履修登録できる単位数の上限は48単位です。

上限を超えて履修登録することはできません。

また、半期の登録単位数が24単位以下となるよう、履修計画を立ててください。

$$\boxed{\text{前期履修登録単位数}} + \boxed{\text{後期履修登録単位数}} = 48 \text{ 単位まで}$$

上限は登録単位数の合計であり、修得単位数の合計ではありません。

前期終了時点で単位を修得できなかった科目(59点以下又はD評価)があった場合でも、その単位数分の授業科目を後期の履修登録修正期間に追加することはできません。(前期成績の結果により1年間の履修登録単位数の上限が変動することはありません。)

* 卒業年次においても、履修登録単位数の上限は48単位です。注意してください。

* 卒業に必要な単位としてカウントされない科目(「諸課程履修科目」等)は、CAP制の対象外ですので、上限を超えて履修登録することができます。

<各科目区分の履修登録に伴う確認一覧表>

| 領域 | 科目区分 | 卒業に必要な単位数に含まれる科目 | CAP制対象科目 |
|-----------|---------------|------------------|----------|
| 科建 目群学 | 仏教学 | ○ | ○ |
| 共通 科目群 | 言語コミュニケーション科目 | ○ | ○ |
| | 情報基盤科目 | ○ | ○ |
| | 健康科学科目 | ○ | ○ |
| | ジェンダー科目 | ○ | ○(※) |
| | 連携活動科目 | ○ | ○ |
| | 国際理解科目 | ○ | ○(※) |
| | 教養科目 | ○ | ○ |
| | オープン科目 | ○ | ○ |
| 科専 目群門 | 学科専門科目 | ○ | ○(※) |
| その他 | 諸課程履修科目 | × | 対象外 |

(※)一部、CAP制の対象外となる科目があります。詳細はP.5を確認してください。

<CAP 制の対象科目>

卒業に必要な単位としてカウントできる科目は、CAP 制の対象となるのが原則です。

ただし、卒業に必要な単位としてカウントできる科目のうち、卒業論文又は卒業研究、校外実習及び校外研修を中心とする科目及び当該実習指導に関する科目等は CAP 制から除外されます。

※卒業に必要な単位としてカウントできる科目のうち、CAP 制から除外される科目

| 領域 | 科目区分 | 科目名(CAP 制の対象外) |
|-----------------|---|---|
| 共通科目群 | ジェンダー科目 | 職業体験実習 |
| | 国際理解科目 | 語学・文化研修(A1～A5、B1～B5) |
| 専門科目群 | 全学部 専門科目 | 卒業論文又は卒業研究 |
| | 教育学科教育学専攻 専門科目 | 教育実習(I、II)、教育実習論(I、II) |
| | | 特別支援教育実習、特別支援教育実習論 |
| | | 社会教育基礎実習、社会教育実習 |
| | | 国語科教育方法論、社会科教育方法論、算数科教育方法論、理科教育方法論、生活科教育方法論、音楽科教育方法論、図工科教育方法論、家庭科教育方法論、体育科教育方法論、外国語科教育方法論 |
| | 教育学科養護・福祉教育学専攻 専門科目 | 養護教育実習、養護教育実習論 |
| | | 教育実習、中学校教育実習、教育実習論 |
| | | 看護臨床実習、看護臨床実習指導 |
| | | ソーシャルワーク実習、ソーシャルワーク実習指導 |
| | 教育学科音楽教育学専攻 専門科目 | スクールソーシャルワーク実習、スクールソーシャルワーク実習指導 |
| | | 教育実習、中学校教育実習、教育実習論 |
| | 社会教育基礎実習、社会教育実習 | |
| | | 保育実習Ⅰ、保育実習指導Ⅰ |
| | 児童学科 専門科目 | 保育実習Ⅱ、保育実習指導Ⅱ |
| | | 保育実習Ⅲ、保育実習指導Ⅲ |
| 教育実習、教育実習論 | | |
| 社会教育基礎実習、社会教育実習 | | |
| 心理学科 専門科目 | 心理実習 | |
| 食物栄養学科 専門科目 | 給食運営校外実習、給食運営校外実習事前事後指導 | |
| | 臨地実習(臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、公衆栄養学、給食経営管理論) | |
| | 臨地実習事前事後指導 | |
| | 情報処理、被服学概論、住居学概論、保育学、家庭経営学、衣服実習、家庭電気・機械 | |
| 家庭科教育法(1、2、3、4) | | |
| 生活造形学科 専門科目 | テキスタイルアドバイザー実習 | |
| 現代社会学科 専門科目 | 多文化理解実習 | |
| | 短期英語研修A、短期英語研修B | |

*この他、本学入学前に他大学で修得した科目や、留学等により単位認定された科目、京女高大連携科目、外国語認定科目など、認定された科目(成績表に「N」と表記される科目)は卒業に必要な単位としてカウントされますが、CAP 制からは除外されます。

*卒業に必要な単位としてカウントされない科目(「諸課程履修科目」等)は、もともと CAP 制から除外されています。

■カリキュラムマップ

本学では、学位授与の方針（※）として、修得すべき6つの能力を示しています。（表1）

また、P.16以降の履修科目表では、各科目と6つの能力の関連性を「カリキュラムマップ」に示しています。（卒業要件の単位にはならない「諸課程履修科目」を除く。）

各科目においてそれぞれの能力と特に深い関連性のある項目は「◎」、ある程度関連性のある項目は「○」を付しています。

（※）学位授与の方針についてはWeb上に詳細を掲載しています。

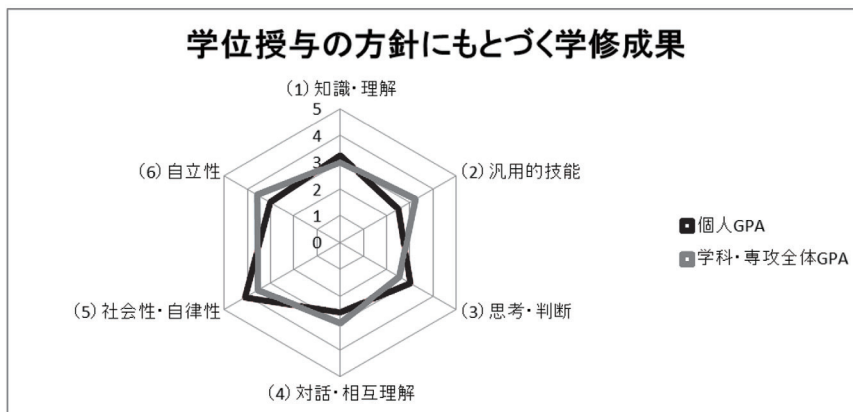
表1

| | |
|--|---|
| <p>1. 知識・理解</p> <p>①専門分野について、高度の知識・理解・技能を有している。</p> <p>②人文、社会、自然など、広い教養を有している。</p> <p>③宗教に対する正しい理解と正しい批判力とを有している。</p> <p>2. 汎用的技能</p> <p>①日本語を正確に理解・表現できる。</p> <p>②母語以外の特定の外国語が運用できる。</p> <p>③数量データを含む多様な情報を収集・分析・表現し、活用できる。</p> <p>④情報通信技術（ICT）を活用することができる。</p> <p>3. 思考・判断</p> <p>①主体的で批判的・合理的な思考を展開できる。</p> <p>②専門分野の知識・理解等に拠りつつ、広い視野と根拠に基づいて判断できる。</p> <p>③主体的に課題を発見・解決できる。</p> | <p>4. 対話・相互理解</p> <p>①様々な状況に応じた、適切な表現・理解、態度による対話ができる。</p> <p>②対話・議論を通して、他者（異文化も含めて）との相互理解・協調に努めることができる。</p> <p>5. 社会性・自律性</p> <p>①高い倫理観を備え、市民としての社会的責務に対する自覚を有している。</p> <p>②社会の規範やルールに従って、自らを律して行動できる。</p> <p>③組織の中で、自らの専門的知識・理解・技能、個性や能力を活かして協働できる。</p> <p>④適切なリーダーシップを発揮できる。</p> <p>⑤専門的知識・理解・技能等を活用して、社会に貢献できる。</p> <p>6. 自立性</p> <p>①卒業後も生涯を通じて学び続けられるよう、自立的な学習能力を身につけている。</p> |
|--|---|

ーカリキュラムマップを活用した学修成果の可視化についてー

修得した科目の成績から算出された6つの能力ごとのGPAの数値を線をつなぎ、レーダーチャートに表したグラフを、京女ポータル学修ポートフォリオで確認することができます。

学修成果を視覚的に確認することにより、自身の強みや弱みを知り、履修科目の検討、進路決定や就職活動等に活用することができます。



■ナンバリング

ナンバリングは、学修の順序や当該科目の位置付け・体系性を視覚化するため、全ての開講科目に規則的な番号を付番したものです。

例)国文学科開講科目「基礎演習 A」

L1 2 1 2 2
① ② ③ ④ ⑤

- ①: 学科等の開講元識別記号を表しています。〈例〉「L1」…国文学科
 ②: 授業レベルを4種類に区分しています。〈例〉「2」…基礎
 ③: 専門科目、共通科目などの科目区分や必選の別を表しています(※)。〈例〉「1」…専門科目(必修)
 ④: 授業形態を5種類に区分しています。〈例〉「2」…演習・講読
 ⑤: 学位授与の方針に示された6つの能力のうち、カリキュラムマップが示す、科目と最も関連性の深い能力を表しています。〈例〉「2」…汎用的技能

(※)卒業要件としての必修・選択を示しています。

①開講元識別記号

| | | |
|---------------|-------|----|
| ◆建学科目群 | | |
| 仏教学 | | A1 |
| ◆共通科目群 | | |
| 言語コミュニケーション科目 | 英語 | B1 |
| | ドイツ語 | B2 |
| | フランス語 | B3 |
| | 中国語 | B4 |
| | ロシア語 | B5 |
| | 日本語 | B6 |
| 情報基盤科目 | | C1 |
| 健康科学科目 | | D1 |
| ジェンダー科目 | | F1 |
| 連携活動科目 | | G1 |
| 国際理解科目 | | B7 |
| 教養科目 | | E1 |
| ◆諸課程履修科目 | | |
| 教職課程科目 | | V1 |
| 学芸員課程科目 | | V2 |
| 司書課程科目 | | V3 |
| 日本語教師課程科目 | | V4 |

| | |
|----------------|----|
| ◆専門科目群 | |
| 文学部共通専門科目 | L0 |
| 国文学科専門科目 | L1 |
| 英文学科専門科目 | L2 |
| 史学科専門科目 | L3 |
| 教育学科共通科目 | M0 |
| 教育学専攻専門科目 | M1 |
| 養護・福祉教育学専攻専門科目 | M2 |
| 音楽教育学専攻専門科目 | M3 |
| 児童学科専門科目 | M4 |
| 心理学科専門科目 | M5 |
| 食物栄養学科専門科目 | N1 |
| 生活造形学科専門科目 | N2 |
| 現代社会学科専門科目 | P1 |
| 法学科専門科目 | Q1 |
| データサイエンス学科専門科目 | R1 |

②授業レベル

| | |
|---|-----|
| 1 | 入門 |
| 2 | 基礎 |
| 3 | 応用 |
| 4 | 発展 |
| - | - |
| - | - |
| 9 | その他 |

③科目区分

| | |
|---|----------|
| 1 | 専門科目(必修) |
| 2 | 専門科目(選択) |
| 3 | 共通科目(必修) |
| 4 | 共通科目(選択) |
| 5 | 諸課程科目 |
| - | - |
| 9 | その他 |

④授業形態

| | |
|---|-----------|
| 1 | 講義 |
| 2 | 演習・講読 |
| 3 | 実験・実習・実技 |
| 4 | 学外実習・研修 |
| 5 | 卒業論文・卒業研究 |
| - | - |
| 9 | その他 |

⑤学位授与の方針

| | |
|---|---------|
| 1 | 知識・理解 |
| 2 | 汎用的技能 |
| 3 | 思考・判断 |
| 4 | 対話・相互理解 |
| 5 | 社会性・自律性 |
| 6 | 自立性 |
| 9 | その他 |

他大学で修得した単位の認定について

大学コンソーシアム京都の単位互換制度を利用し、他大学又は短期大学で修得した単位を本学の科目に読み替えて単位を認定することができます。

卒業に必要な単位に含めることができる単位数の上限は、外国語検定試験により認定を受けた科目等の単位数と併せて**60単位まで**です。

■大学コンソーシアム京都の単位互換制度について

大学コンソーシアム京都の単位互換包括協定に加盟している大学の学生が、他の加盟大学が開講する科目を履修でき、修得した単位が所属大学の単位として認定される制度です。この制度を利用して受講することができる科目を単位互換科目といいます。

単位互換科目の受講は、2回生及び3回生のみ可能です。

◆単位互換科目の受講に関する注意事項

- ・単位互換科目は、履修登録後に登録を取り消すことができません。
- ・単位互換科目の単位数も、CAP制（1年間に登録できる単位数の上限）に含まれます。（※）
- ・単位互換協定により他大学で開講される教職関連科目の単位を修得しても、本学における教員免許取得のための単位として扱うことはできません。

（※）外国語認定科目等の単位数と併せて60単位を超えるものについては、卒業に必要な単位に含まれない為CAP制の対象外となります。

■国内協定大学留学制度について

本学と協定を結んだ国内の大学に一年間又は半年間留学する制度を利用した場合、本学に学費を支払うことで留学先の学費が免除されます。

協定大学への留学期間は本学在学期間とみなされるため、休学することなく4年で卒業を目指すことができます。また、留学先での修得単位の一部（上限あり）は、授業内容に応じて本学における履修科目の単位として認定されます。

詳細については教務課にお問い合わせください。

■海外協定大学留学制度について

本学と協定を結んだ海外の大学に一年間又は半年間留学する「協定大学留学」には、留学期間中の本学の学費相当額が協定留学生奨学金として給付される「派遣留学」と、本学に学費を支払うことで留学先の学費が免除される「交換留学」の2種類があります。

協定大学への留学期間は本学在学期間とみなされるため、休学することなく4年で卒業を目指すことができます。また、留学先での修得単位の一部（上限あり）は、授業内容に応じて本学における履修科目の単位として認定されます。

詳細については国際交流課にお問い合わせください。

成績評価について

■成績評価

授業科目の成績評価は、試験やレポート、平常成績等を総合して判断し、上位より SS、S、A、B、C 及び D をもって表示します。(履修要項第 41 条)

また、それぞれの成績評価の GP(グレードポイント)から算出した単位当たりの平均値(GPA)を成績通知書に記載します。(履修要項第 42 条)

■GPA

GPA とは「Grade Point Average」の略で、履修登録したすべての科目の成績評価を GP に置き換え、算出した平均値(Average)のことをいいます。教職課程の履修、奨学金受給者の選出や就職活動、留学生選考等に使用する大切な基準です。

- ・卒業要件に含まれない科目の成績も GPA の計算に含まれます。
- ・100 点満点の採点を行わず、成績評価を「合格(G)又は不合格(D)」、「認定(N)」で表記する科目は、GP が算出できないため、GPA の算出対象科目から除外します。

(1) GP (Grade Point) 算出方法

100 点満点による採点結果(素点)から GP を求めます。

$$GP = \text{採点結果(素点)} \times 1/10 - 5$$

| 種別 | 採点結果 | 成績評価 | GP | 判定の基準 |
|------------|---------------|------|---------|-------------------------------|
| 合格 | 100 点 | SS | 5.0 | 授業科目の目標を完全に達成している。 |
| | 90 点~99 点 | S | 4.0~4.9 | 授業科目の目標をほぼ完全に達成している。 |
| | 80 点~89 点 | A | 3.0~3.9 | 授業科目の目標を相応に達成している。 |
| | 70 点~79 点 | B | 2.0~2.9 | 授業科目の目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。 |
| | 60 点~69 点 | C | 1.0~1.9 | 授業科目の目標の最低限を満たしている。 |
| | G | G | — | 100 点法では評価できない科目の合格。(※) |
| 不合格 | D 0 点~59 点 | D | 0.0 | 授業科目の目標の最低限を満たしていない。 |
| 単位認定 合格 | N | N | — | 他大学等で修得した単位。 本学入学前に修得した単位。 |

(※) 教職実践演習及び教育実習等の学外実習・研修にかかる授業科目の成績評価は、G、D をもって表わし、G を合格とする。

(2) GPA の算出方法

$$GPA = \frac{[(\text{登録科目の単位数}) \times (\text{登録科目で得た GP})] \text{の総和}}{(\text{登録科目の単位数}) \text{の総和}}$$

■学修面談

GPA が一定基準(※)を下回った場合、本学教員による面談を行います。(履修要項第 42 条の 2)

(※) GPA の基準 (GPA の基準は変更になることがあります。)

- ・当該学期の GPA が 2.0 未満の場合
- ・その他、学科・専攻において特に面談が必要と認めた場合

京都女子大学副専攻プログラム

副専攻プログラムとは、学部・学科等の専門領域以外の特定分野や特定課題について、授業科目を体系的に編成したプログラムであり、複眼的な視野を持って社会で活躍する人材を育成することを目的とした、全学共通のプログラムです。

2023 年度入学生の副専攻プログラムには『**仏教プログラム**』と『**女性地域リーダー養成プログラム**』があります。それぞれに定められた科目を履修し単位を修得することで、当該副専攻プログラムの「修了証」が授与されます。

■履修方法

各副専攻プログラムの修了に必要な科目は、全学生が履修することができます。また、修得した単位は卒業要件に含めることができます。

各副専攻プログラムの科目表は P.11～P.12 に掲載しています。

※副専攻プログラムの履修は、申込みの必要はありません。また、履修にかかる費用等も発生しません。各副専攻プログラムの科目表に従い、4 年間で所定の科目を履修してください。

■修了証の授与

副専攻プログラムを修了した学生に対して、その学修成果を認定し、京都女子大学副専攻プログラム修了証が学長より授与されます。修了証の発行を希望する者は、3 回生終了時又は 4 回生終了時に修了証発行申請を行う必要があります。

修了証発行申請時期と修了証授与時期について

3 回生終了時（2026 年 3 月）に申請 ⇒ 4 回生 4 月に授与
4 回生終了時（2027 年 3 月）に申請 ⇒ 卒業式に授与

※修了証は再発行できません。

※成績表に副専攻プログラム名は掲載されません。履修した科目は、副専攻プログラムとしてではなく、共通領域の科目として掲載されます。

※副専攻プログラムの修了を証明するものは「修了証」のみとなります。

京都女子大学副専攻プログラム規程

(目的)

第 1 条 この規程は、京都女子大学学則第 14 条の 2 の規定に基づき、京都女子大学副専攻プログラム（以下、「副専攻」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(副専攻の区分及び修得単位)

第 2 条 副専攻の区分及び修了に必要な単位数は、別に定める。

(履修)

第 3 条 副専攻の履修に必要な手続きについては、本学の履修要項を準用する。

(修了認定)

第 4 条 副専攻の修了認定は、当該プログラムを運営するセンター・研究所または委員会の判定を経て、学長が行う。

2 学長は、副専攻の修了認定を受けた者に修了証を授与する。

(改廃)

第 5 条 この規程の改廃は、大学部局長会の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は平成 31 年 4 月 1 日から施行し、平成 31 年度入学生から適用する。

京都女子大学副専攻 仏教プログラム

本学は親鸞聖人の体せられた仏教精神にもとづく教育を建学の精神に掲げています。その理念を達成するうえで、仏教学の学修は中核に位置づけられます。必修科目で学ぶ基礎的な知識とともに、より発展的・実践的な科目群において学びを深め、体系的な学修を行うことで、自己と社会のあり方を深く洞察できる心豊かな人間を育成することを目的としています。

■到達目標

必修科目である「仏教学ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」において、釈尊と親鸞聖人の生涯及びその教えについて基礎的な知識を修得します。加えて、仏教の思想と文化、あるいは現代社会の諸問題を仏教的視点から考察する「教養科目 特定主題（仏教）」及び指定された科目を履修し、体系的な知識を修得することを目指します。これにより仏教を通じて自己と社会のあり方を問う視点を身につけます。

■仏教プログラム 科目表

卒業必修科目 8 単位を含めて合計 16 単位以上修得すること。

| 科目名 | 単位数 | 科目区分 | 備考 | |
|-------------------|-----|-------------------|---------------------|--------------------|
| 仏教学ⅠA | 2 | 仏教学 卒業必修科目 | 8 単位必修 | |
| 仏教学ⅠB | 2 | | | |
| 仏教学ⅡA | 2 | | | |
| 仏教学ⅡB | 2 | | | |
| 現代と仏教A | 2 | 教養科目 特定主題 (仏教) | 合計 8 単位以上 修得すること | |
| 現代と仏教B | 2 | | | |
| 仏教文学A | 2 | | | |
| 仏教文学B | 2 | | | |
| 仏教文化A | 2 | | | |
| 仏教文化B | 2 | | | |
| 仏教思想A | 2 | | | |
| 仏教思想B | 2 | | | |
| 外国語で読む仏教A | 2 | | | |
| 外国語で読む仏教B | 2 | | | |
| 地域と仏教演習 | 2 | | | |
| 社会と仏教特論 | 2 | | | |
| 日本文化特殊講義A | 2 | | | オープン科目 (国文学科提供) |
| 日本文化特殊講義B | 2 | | | |
| 合計 16 単位以上修得すること。 | | | | |

京都女子大学副専攻 女性地域リーダー養成プログラム

女性地域リーダー養成プログラムは、各学科・専攻で修得した専門性に加えて、地域課題の発見能力、問題解決能力、実践力を備えた行動できる女性、地域のリーダーとなりうる女性の養成を目的としています。

到達目標

導入科目である「連携活動入門」では、大学・企業をはじめとして社会全体で連携活動が求められている背景、及び連携活動に従事するにあたって知っておくべき基礎知識を学びます。連携活動科目及び指定された科目の履修を通して、各種の連携活動に関する専門知識を修得します。

「連携課題研究 1」において、連携活動に求められる実践力を養います。連携活動を体系的に学ぶことによって、地域社会の担い手として、地域社会が抱える諸課題を考察し、その解決に対応できる科学的思考力を身につけます。

女性地域リーダー養成プログラム 科目表

必修科目を含めて合計 12 単位以上修得すること。

| 科目名 | 単位数 | 科目区分 | 備考 | |
|------------------|-----|----------------------|---|--------|
| 連携活動入門 | 2 | 連携活動科目 | 2 単位必修 | |
| 地域連携講座 A 1 | 2 | | | |
| 地域連携講座 A 2 | 2 | | | |
| 地域連携講座 A 3 | 2 | | | |
| 地域連携講座 B 1 | 2 | | | |
| 地域連携講座 B 2 | 2 | | | |
| 産学連携講座 A 1 | 2 | | | |
| 産学連携講座 A 2 | 2 | | | |
| 産学連携講座 B 1 | 2 | | | |
| 産学連携講座 B 2 | 2 | | | |
| 地域社会学 | 2 | オープン科目 (現代社会学科提供) | 地域連携講座 1 科目、産学連携講座 1 科目を含む 計 4 科目 8 単位以上修得 すること | |
| 民俗文化論 | 2 | | | |
| 連携課題研究 1 | 2 | 連携活動科目 | | 2 単位必修 |
| 合計 12 単位以上修得すること | | | | |